

令和4年度

全国商業經濟教育研究協議会



主 催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

目次

1. 令和4年度 第37回商業経済検定試験 出題・作問の意図.....	1
2. 令和4年度 第37回商業経済検定試験 アンケート集計.....	4
3. 令和4年度 科目別・項目別出題基準.....	17
4. 令和4年度 第37回商業経済検定試験受験申込者・受験者・合格者数一覧表.....	18
5. 令和4年度 第37回商業経済検定試験受験者数一覧表.....	19
6. 商業経済検定試験受験者・合格者数集計一覧表.....	20
7. 令和4年度 第37回商業経済検定試験 第1級満点賞一覧表.....	21
8. 令和4年度 第37回商業経済検定試験 全科目合格者表彰一覧表.....	22
9. 令和5年度 科目別・項目別出題基準.....	23
10. 商業経済検定試験の試験実施順序について.....	24
11. リテールマーケティング(販売士)検定試験とのリンケージ制度について.....	25

令和4年度 第37回 商業経済検定試験 出題・作問の意図

【ビジネス基礎】

今回の検定問題では、新学習指導要領に沿って基礎的・基本的事項を中心に出题し、「科目別・項目別出題基準」に従って作問した。「ビジネス基礎」の検定取得を契機に、商業経済検定1・2級取得への励みになればと考えている。

①は経済と流通から、物流の諸活動について基礎的な内容を理解しているかを問う出題をした。

②は企業活動から、資金と資金調達について特徴を理解しているかを問う内容を出題した。

③は経済と流通から、小売業の様々な業態に関する特徴を理解しているかを問う内容を出題した。

④は取引とビジネス計算から、売買取引の基礎的な用語を理解しているか、またビジネス計算の基礎を問う出題をした。⑤はビジネスに対する心構えから、コミュニケーションについての特徴と、情報の入手についての内容で出題した。

⑥は経済と流通から、持続可能な経済社会への目標達成のための企業活動についての内容を出題した。⑦は経済と流通から、登場から半世紀以上たつコンビニエンスストアについての特徴を理解しているかを問う内容を出題した。さらに、小売業の組織化としてのチェーン化についても出題した。⑧は経済と流通から、安定した経済活動をおこなううえで欠かすことのできない保険に関する出題をした。⑨は経済と流通から、超低金利政策の影響を最も受けた銀行に関して出題した。銀行の業務の中でも中心となる三大業務の預金業務と為替業務について基本的な出題をした。

⑩は企業活動から、組織の運営における知識理解を問う問題及びビジネスモデルについて出題をした。事例として、女性向け月額制ファッションレンタルサービスをメインとする、個人向け洋服コーディネートサービスを運営している「air Closet」を参考とした。⑪は企業活動から、マーケティングの重要性及びさまざまな雇用形態を問う問題を出題した。事例として、新規ビジネスの企画開発、セールスプロモーションの企画・制作

及び運営をする広報代理業「サニーサイドアップ」を参考とした。⑫は企業活動から企業の種類、取引とビジネス計算から株式の評価に関する出題をした。事例として、テーマパークを運営している「オリエンタルランド」を参考にした。

⑬は取引とビジネス計算から、売買契約の締結について出題した。琉球楽器店がセール用チラシを印刷業者に作成依頼し、購入後代金を支払い、領収書を受け取るという事例を問題とした。〔I〕では売買契約の締結まで、〔II〕では売買契約の履行までを出題した。売買取引の一連の流れについて、売買契約に必要な書類やその内容について理解しているかを問う内容とした。また代金の支払い後、発行される領収書から読み取る力を問う出題とした。

ビジネス基礎は、商業科目の基礎的な科目として、その知識について本文をよく読み、内容を理解したうえで解答をしてもらえるよう留意して作問した。また、新学習指導要領による新しい分野や用語についても委員会で検討し出題した。生徒たちがこの知識を基として、商業科目のさらに発展した知識の習得につながればと期待したい。

【マーケティング】

学習指導要領における目標・ねらいを考慮し、概ね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題した。作問にあたり、科目としてふさわしい内容、文章構成になるように努め、2社の教科書を参考に基礎的・基本的な出題をするように心がけた。出題形式に関しては、記号選択問題42問、記述問題8問とした。記述問題については2社の教科書に記載されている用語を出題するようにした。

①②は、現代市場とマーケティングからの出題とした。①は、生産と消費の動向について出題した。②は、プロ野球の球団経営を事例として、SWOT分析やSTPなどについて出題した。

③は、市場調査からの問題とした。飲料メーカーを事例として、本文を〔I〕〔II〕の二部構成とし、〔I〕は、状況分析と予備調査について、〔II〕

は、本調査に関する内容として、市場調査について広く出題した。

④⑤は、消費者の購買行動からの出題とした。④は、購買意思決定過程や購買動機などについて出題した。⑤はスマートフォンメーカーの販売戦略を事例として、製品のライフサイクルや採用者区分などについて出題した。

⑥～⑧は、商品計画と価格の決定からの出題とした。⑥は、製紙メーカーを事例として、販売予測の方法や損益分岐点など、販売計画について出題した。⑦は、品揃えの方針や経済的発注量など、仕入計画について出題した。⑧は、値入率の計算や価格政策など、販売価格の決定について出題した。

⑨～⑬は、販売経路と販売促進からの出題とした。⑨は、生産者がとる複数のチャネル政策について出題した。⑩は、眼鏡の製造小売業を事例として、販売経路の強化やSCMなどについて出題した。⑪は、即席麺メーカーを事例として、広告の種類や販売促進戦略などについて出題した。⑫は、コロナ禍における広告費やインターネット広告などについて出題した。⑬は総合スーパーマーケットチェーンを事例として、従業員訓練の名称やテストクロージングなどについて出題した。

これらの問題を通じて、経済社会や各企業のマーケティング活動に目を向け、常にその変化を意識して欲しいと考えている。そのため、教科書に記載されていない内容に関しては時事問題として出題したが、本文をよく読むことで内容が理解でき、正答が導き出せるように配慮した。

【経済活動と法】

各出題分野から作問し、おおむね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題した。法律は難しいというイメージをもつ生徒が多いと考えている。そのため、生徒に馴染むような身近な話題や時事的要素を取り入れ、教科書でしっかり学んでいれば解答できるように作問するよう心掛けた。

①②は経済社会と法、法の意義と体系、法の適用と解釈から出題した。経済活動と法の導入の分野であるので、基本的な出題になるように心掛けた。

③～⑦は権利・義務とその主体、物と財産権、知的財産権から出題した。ほぼ毎年出題されている問題なので過去問題や事例検討などで学習すれば得点できると考えている。また、知的財産権に関する知識は必須であり、その基礎的な内容を理解してほしいと考え、生徒にとって身近な漫画の著作権を題材として⑦で出題した。

⑧～⑭は財産権と契約、物の売買、物の貸借、契約によらない財産権の変動、財産権の保護から出題した。意思表示や条件、債務不履行や契約の分類など均等に出題した。貸借や連帯保証債務などは、今後の生活において必要であるという観点から出題した。また、任意代理や初日不算入の原則に関する期間などは、事例として知っておいてほしい内容であると思い出題した。

選択問題Ⅰの会社に関する法の①は、手形・小切手について出題した。簿記やビジネス基礎、総合実践などでも扱う内容であり、より一層理解してほしいと考え出題した。②は、持分会社・株式会社、定款について出題した。

選択問題Ⅱの企業の責任と法の①は消費者と法から出題した。成年年齢が18歳に引き下げられ、消費者被害に関して理解を深めてほしいと思い出題した。②は、労働と法から出題した。近年、ワークライフバランスや男性の育児休暇取得などの言葉をよく聞くようになったことから、生徒が就職した際に役立てばよいと思い出題した。選択問題は、難易度や記述問題が偏らないようにバランスをとって作問するよう心掛けている。

2020年4月に改正民法が施行された。これに伴い、教科書の記載も変更されている。令和6年度から科目名も「ビジネス法規」と変更される。教科書の内容を慎重に検討し、生徒が身近に感じられるような作問を心掛けたい。

【ビジネス経済A】

学習指導要領における「ビジネス経済」の目標・ねらいを考慮し、おおむね事前に提示した「科目別・項目別出題基準」のとおり出題した。

出題形式に関しては、ほぼ例年通りとし、記号問題42題、記述式問題8題とした。

「ビジネス経済」では、「ミクロ経済学」・「マク

「経済学」の基礎的な知識を学習し、経済のしくみや概念について理解させ、経済理論から、価格の決定・景気の循環・経済政策の影響などに着目し、経済事象を主体的に考察する能力と態度を育てることが求められる。

教科書を見ると、他の科目と比較して、用語が難しいなどのイメージがあるため、できる限り教科書の事例だけでなく、家庭用ゲーム機や最近の時事問題などを題材とし、高校生にとってイメージしやすい事例を出題するように心がけた。また、用語の暗記に終始させるだけでなく、経済に関連する題材を読み込ませることで、思考力・判断力を問う出題も行った。

①は、不要な財の処分を題材に資源配分、市場メカニズムについて出題をした。②は、ゲーム機市場を題材に差別化競争を問う出題をした。③は、ハンバーガーチェーンの事例を基に需要に関する問題を出題した。④は、供給の価格弾力性に関する問題を出題した。⑤は、需要供給曲線グラフの読み取り問題を出題した。⑥は、労働市場に関する問題を出題した。⑦は、ガソリン価格の上昇に関する事例を取り上げ、税金と補助金に関する問題を出題した。

⑧は、ミクロ経済学とマクロ経済学が取り扱う分野を確認しつつ、GDPに関する問題を出題した。⑨は、GDPの三面等価に関する問題を出題した。⑩は、経済成長に関する問題を出題した。⑪は、インフレーションに関する問題を出題した。⑫は、市場の失敗を導入に用いながら、政府の機能に関する問題を出題した。⑬は、債務残高について、わが国と欧米諸国を比較する中で、財政に関する問題を出題した。⑭は、金融に関する問題を出題した。

最後に、「ビジネス経済A」では、理論を扱いながら実際の経済を読み解くことが必要になる。理論と実際のバランスがとれるような指導をお願いしたい。高校生にとって少しでも興味・関心を引き出せるような出題を心がけていくので、今後も受験を奨励して頂ければ幸いである。

【ビジネス経済B】

学習指導要領における「ビジネス経済応用」の目

標・ねらいを考慮し、おおむね事前に提示した「科目別・項目別出題基準」の通り出題した。

①は、自動車メーカーと情報通信会社が連携して、ICTを活用したビジネスの事例から、わが国における産業構造の変化とサービス経済化の進展について理解して欲しいと考え出題した。②は、対個人サービス産業や対事業所サービス産業、さらに、有形の商品にないサービスの特徴について理解して欲しいと考え出題した。

③は、ヨーロッパにおける地域経済統合の動きとデジタル通貨についての事例から、国際化の進展について理解して欲しいと考え出題した。④は、1997年から2020年までのわが国の国際収支状況の資料を読み取りながら、わが国の経済発展を長期的な視点で捉えて、国際収支の発展段階を思考・判断できるようになって欲しいと考え出題した。⑤は、国際的に流通する製品を扱ったグローバル企業の事例から、自由貿易の重要性や貿易が経済発展に及ぼす影響や課題について理解して欲しいと考え出題した。⑥は、身近なビジネスの事例を扱いながら、外国為替相場の変動に対する企業の対応策について理解して欲しいと考え出題した。

⑦は、東京証券取引所の市場再編を扱いながら、株式市場について理解して欲しいと考え出題した。⑧は、近年のわが国の政策と貯蓄率の関係から、金融市場・資本市場の動向を理解して欲しいと考え出題した。

⑨は、三つの側面にみることが出来る日本の経営の特色を理解して欲しいと考え出題した。⑩は、企業をとりまく外部環境の変化や、その変化によって生じる課題や対応について理解して欲しいと考え出題した。⑪は、企業が果たすべき社会的責任に関して、環境への取り組みについて理解を深めて欲しいと考え出題した。⑫は、企業の海外進出と、海外進出にともなう企業経営の現地化に関して理解して欲しいと考え出題した。

⑬は、ベンチャービジネスについて、また、ベンチャービジネスに対しての支援制度に関して理解して欲しいと考え出題した。⑭は、地域ビジネスに関して理解し、興味をもってもらいたいと考え出題した。

令和4年度 第37回 商業経済検定試験 アンケート集計

公益財団法人全国商業高等学校協会
商業経済研究部

[1] 一般事項について

1. 次の各事項について、該当する記号をご記入ください

・記述式解答について

ア. 増やしてほしい	2	4.7%
イ. 現行でよい	41	95.3%
ウ. 減らしてほしい	0	0.0%

・時事問題の取り入れについて

ア. 増やしてほしい	6	14.0%
イ. 現行でよい	36	83.7%
ウ. 減らしてほしい	1	2.3%

・今回から2級科目の試験時間が60分から50分へ変更になりました。試験時間について

ア. 時間が短い	1	2.3%
イ. ちょうどよい	40	93.0%
ウ. 時間が長い	2	4.7%

2. 検定試験の実施科目(5科目)、実施時期についてご意見がありましたら、お願いします

- ・二科目ぐらい同時進行で実施できないものか？もう少し早い時期に実施してほしい。たとえば1月または12月。コロナ禍のため、欠席せざるを得ない人が多々いました。徐々に日商の検定もオンライン試験が増えているので、期日が複数日または、追受験ができないものでしょうか。年一回の試験のため(岩手)
- ・適切(山形)
- ・検定終了後から関係手続きの締切までの期間が短い(福島)
- ・科目については、授業科目が変更され、授業内容をどう指導していくのか模索している最中なので、しばらくはこのままでいいと思う。実施時期は、茨城県の高校入試の時期となるため、2月から12月などに変更していただきたい。検定終了から事務手続きまでの期間と入試準備のための期間が同時期になっている(茨城)
- ・現行のままでよい(千葉)
- ・年間2回または、1月中に検定があるといいです(山梨)
- ・実施科目:新科目、移行状況ともにこれでいいと思います。実施時期:現行の2月第1日曜日でよいと思うが、年度末処理のことを考慮すると、1月第2日曜日実施はどうか。検定試験範囲まで授業が進まないという問題点については選択問題で対応するという方法があると思います(愛知)
- ・他の検定を考えると、この時期以外に無理かと思う(三重)
- ・3年生の卒業間際で、日程が厳しい(兵庫)
- ・現行通りでよい。実施もこの時期でよい(鳥取)
- ・校内でも2月の実施時期が良いという意見と実施時期を早めて欲しいという意見。早めて欲しい理由は、3年生が受験するため、今の時期は学校が家庭学習日期間に入っているという理由(岡山)
- ・早くなると授業で取り扱う内容も薄くなるので、現行の時期がよい(山口)
- ・これまでと同じでよいと思います(佐賀)

3. その他ご意見がありましたらお願いします

- ・2級以上の科目の難易度にばらつきがありすぎるのではないか。ビジネス経済Bは、ビジネス基礎と同じ9:00開始にはできないか。試験時間の50分には問題はないが、例年より試験時間に余裕のない生徒が多く見られた印象がある。答案用紙に空白のスペースを入れてほしい。○付けするスペースがない。(岩手)
- ・実施意見の集約が必要であれば、3学期ではなく2学期後半(10月から11月)あたりの実施を希望します(秋田)
- ・①生徒ファーストを考えた時、生徒が自分の学校で受験できるように規約を変えるべき。1名でも分会場校として認める。行ったことのない学校で受験するのは生徒にとって負担増。②受験者数に関係なく、諸手当は一律にすべき。「諸手当は試験場校の90%」→受験者数が少ない学校の先生方は手当が少ない。同じ試験監督をしているのに、不公平では?③分会場校への問題送付は、試験場校経由ではなく、全商協会から直接お願いしたい。経費削減。④本部校用の出納帳も、試験場校用と同じく、出納帳の下に、収入項目・支出項目の金額が反映されるようにしてほしい(福島)
- ・2級科目が50分になったことで、生徒は時間を持て余すことがなくなり、また、検定業務の終了が早くなりよかった(神奈川)
- ・検定時間の短縮はよかったと思う。マーケティングのアンケートでは、担当者による違いが大きかったので学校全体としてはまとめづかった。今回が「易しかった」との判断になっても、次回、急に難易度が増すようなことはないようお願いしたい。
- ・今年度は全商からアクセス集中を避けるため、採点手当登録業務を検定直後は控えるように示されていたため、あまり繋がりにくい現象は起きにくかったので助かりました(石川)
- ・過去5回の合格を検索するのがとても煩雑な作業になるという意見がある。よい解決策はないものか(愛知)
- ・タイムテーブルについて、昼食時間を短くして早く終了させる方が、生徒にとっても監督者にとってもいいのではないかと思う。Webシステムを使用する際、非常に通信に時間がかかる。快適に稼働するシステムを要望します(三重)
- ・商業経済検定の5種目制覇は、3級のビジネス基礎を省いて4種目にしてはどうでしょうか(滋賀)
- ・試験終了後の問題用紙の回収は、不要だと思います(兵庫)
- ・商経検定は、ビジネスに関する課題を自ら発見・設定し、世の中の動向を的確かつ深く学ぼううえでも有用な手段の一つとなっている。動機付けと達成感、更には実力の把握、振り返りの他、学習意欲を喚起するうえでも大切なものとなっている。各科目とも毎回趣向を凝らし、時代を映し出すような出題がなされており、それぞれが手の込んだ「作品」(名作)である。念入りに問作された先生方、全商協会職員の方々の労苦に敬意を表したい(鳥取)
- ・「グローバル経済」について継続検討とあるが、いつまでなのか目処を教えてください(岡山)
- ・広島版「学びの変革」を推進する取組として、県立学校4校(広島商・呉商・尾道商・福山商)に、令和2年度からプロジェクト学習「ビジネス探究プログラム」を実施している(広島)
- ・昼休みの時間は不要。(全科目受験の生徒がいるため、昼休みが欲しいという意見で昼休みができたようであるが。)(山口)

[2] 「ビジネス基礎」について

1. 問題は全般的に適切でしたか。

ア. 適切【22】 イ. 概ね適切【11】 ウ. 不適切【1】

その理由についてご記入ください。

- ・難易度は入門級としては適切と感じたため。教科書範囲内が網羅されている(北海道)
- ・特別に対策をする事なく受験することができたため(宮城)
- ・商業の基本的内容を問う内容で良問であった(栃木)
- ・問題別の難易度が適切であるため(埼玉)
- ・直接解答型の問題形式により、用語の1つずつの重要性が増すので、幅広い知識を得る必要性がでてきているように感じた。また、環境問題や時事的な内容を盛り込んでおり、身近な事柄から問題作成されているので、受験者にとって新しい知識を得られる機会になったように思う(千葉)
- ・例年に比べ、県内合格率が著しく減少した。全国的にも同様であるならば、3級ということもあるので、難易度を少し下げようにしていただきたいです(石川)
- ・身近な題材に絡めての出題が多く良問であった(愛知)
- ・基本的な問題であったから(三重)
- ・教科書の範囲からまんべんなく出題されていた(京都)
- ・文章を読まないといけない問題もあり良かった。今の時事に関する問題を出題されていて良問である(岡山)
- ・「ビジネス基礎」の概ねカバーしており、問題の内容も適切であった(佐賀)
- ・現代社会を生きていく上で必要な知識を問う良問。就職後の福利厚生を含めて自分の生活に密着した知識を問うているので、内容として大変良かった(長崎)
- ・教科書に沿った内容でバランスがとれており、時事的な内容も適切であったと思います(熊本)
- ・難易度も適切で、良問であると思います(大分)

2. 問題別の難易度について該当箇所に○印をご記入ください

また、ご意見がありましたら、その内容を記事欄にご記入ください

形式	番号	難しい	適切	易しい	記事
直接解答型	1	0	31	2	
	2	2	30	1	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が他の問題に比べて低かったので、誤解を生む問題文だったのかもしれませんが(石川) ・運転資金に分類されるものにすべき(兵庫)
	3	0	30	3	
	4	0	32	1	<ul style="list-style-type: none"> ・下線部の訂正を選択にしたのがよかった(兵庫)

形式	番号	難しい	適切	易しい	記 事
本 文 参 照 型	5	1	31	1	
	6	0	32	1	・問2. SDGsの記述問題は良問である(岡山)
	7	0	33	0	
	8	1	30	2	・金融機関であれば、銀行だけでよかった(兵庫)
	9	0	33	0	
	10	1	30	2	・時節に合った良問(兵庫) ・サブスクリプション、とうほうの教科書記載なし(愛媛)
	11	3	30	0	・正答率が低かった(岩手) ・法定外のことまで授業で触れることはないのでは(兵庫)
	12	0	33	0	・時節に合った良問(兵庫) ・料金表が出ているので、この表を使用したものがよかった。 問3の正答率が低かった(岡山)
	13	1	32	0	・印紙税額表は触れる機会が少ない(岩手) ・消費税を答える問題は良かった。問6印紙税額表を参照する問題は良問である(岡山)

3. その他ご意見がありましたらお願いします

・教科書でゴシック扱いになっている部分を出題せず、なっていない部分を出題しているケースが目についた。そのところまで踏み込んだ授業をしている学校は少ないと思う(兵庫)

・しっかりと理解しておきたい学習内容が出題されている。日頃の学習内容の理解を見るのにより出題であった(鳥取)

・40分という時間ですが、あと2問ほど増やしても良いのではないかと思います(岡山)

・広島版「学びの変革」を推進する取組として、県立学校4校(広島商・呉商・尾道商・福山商)に、令和2年度からプロジェクト学習「ビジネス探究プログラム」が実施している。
ビジネス基礎受験者については、950名程度であったが、令和2年度350名、令和3年度256名、令和4年度400名に減少している(広島)

・下関商業高校は、「ビジネス基礎」を実施しなかった。従来3単位から2単位に変わったため、検定に特化した授業を避けたいとのことだった(山口)

・良問であったが、生徒にとってはやや難しかった。商業経済検定1級合格を目指すような生徒が出るように指導を工夫していきたい(愛媛)

・今後、「身近な地域のビジネス」に関する出題も増やしてほしい(佐賀)

[3] 「マーケティング」について

1. 問題は全般的に適切でしたか。

ア. 適切【28】 イ. 概ね適切【13】 ウ. 不適切【0】

その理由についてご記入ください。

- 難易度は基本的なものが多く、適切と感じたため。トータルで見てバランスが取れた問題であった。教科書範囲内が網羅されている(北海道)
- 良問であると考え。事例についても適切で、作問者の苦労がうかがえる(山形)
- 生徒が学習した内容を理解しているかが確認できた。文章を読み、正しい答えを判断するのに考えさせる選択肢であった(茨城)
- 全般的に良問であった(栃木)
- 学習内容に対して適切と思える(群馬)
- 問題別の難易度が適切であるため(埼玉)
- 内容が精査されており、様々な産業から問題作成されてる(千葉)
- 記述、選択問題ともバランスが取れ良かったと思います。内容的には過去の問題より解きやすかった(山梨)
- 選択肢の中で考える必要がある問題と、用語を答える問題のバランスが良かったと思います(石川)
- 良問であった(福井)
- 良問であった。想定される思考時間が長い問題と短い問題のバランスが取れている(静岡)
- 基礎基本を問う出題が多く、良問であった(愛知)
- 基本的な問題であったから(三重)
- 各大問に優しい問題と少し難しい問題が含まれていてバランスが良いと感じました(滋賀)
- 昨年並みのレベルか若干易化?このレベルの出題を続けてほしい。全体を通して力を見るのにしっかりとした問作、出題がなされている(鳥取)
- 難しすぎず、易しすぎずで良問だと思う(岡山)
- 前年度合格率 50.2% → 今年度合格率 62.4%(広島)
- 教科書の範囲から適切に出題されている。また、文章の書き方が異なり、考える問いが増えた。しっかりと読ませてから取り組む問題が多く、質・量・難易度も適切な良問であった(愛媛)
- 教科書全体がカバーされており、問題も適切であった(佐賀)
- 内容、量ともに良問(長崎)
- 各分野ごとにバランスが取れており、時事的な事柄が適切であったと思います。時間もちょうどよかったと思います(熊本)
- 難易度も適切で、良問であると思います(大分)
- 基礎的・基本的な問題である。記号・記述の配分も適切である(宮崎)

2. 問題別の難易度について該当箇所に○印をご記入ください

また、ご意見がありましたら、その内容を記事欄にご記入ください

番号	難しい	適切	易しい	記事
1	0	38	3	
2	0	40	1	•問題文第4段落の最終文は「独自の観戦スタイルを確立することができたのである。」とすべきではないかと思います。なぜなら、A社は、独自の観戦スタイルの確立を図って、「ショー形式のものに変更」したのであり、その結果として「こうしたショーを楽しみに来場するファンも多く、新たな観戦者も増加」したので、観戦スタイルは確立したといえると思います。問題文は、意図するところと結果とが交錯した書き方となっているようにとれました(滋賀)
3	1	39	1	
4	1	38	2	
5	0	39	2	
6	1	40	0	•(問2)「損益分岐点」の漢字間違い多数:枝、析、基(いずれも「岐」の誤字)(滋賀)
7	0	40	1	

番号	難しい	適切	易しい	記 事
8	3	37	1	・自動販売機の出題は良い。「チャンネル」は教科書によっては取り扱いが薄いのでは？(北海道) ・もう少し計算問題がほしいです(大分)
9	2	38	1	
10	2	38	1	
11	0	39	2	
12	0	37	4	・マスコミ4媒体はそろそろ現実と合わないので出題しない方がよいと感じる(岡山)
13	0	39	2	

3. その他ご意見がありましたらお願いします

- ・新検定の見本(例題)等、複数用意してもらえると助かります。(北海道)
- ・実務において重要視される損益分岐点売上高や販売予測における売上高実績法の計算など計算問題を増やしても良いのかなと思いました(京都)
- ・教科書をしっかり理解するとともに、幅広く学習することが求められており適切かつ妥当な出題であったと思う(鳥取)
- ・最新のマーケティング事情を出題するのも面白いのでは。(時事問題を増やす)(岡山)
- ・資料の読み取りをする問題などがほしい(大分)

[4] 「経済活動と法」について

1. 問題は全般的に適切でしたか。

ア. 適切【24】 イ. 概ね適切【13】 ウ. 不適切【1】

その理由についてご記入ください。

- ・各範囲から偏りなく出題されていた。教科書範囲内が網羅されている。知識を問う問題と事例の問題がバランスよく出題されていると思います。(北海道)
- ・全体的に基本を押さえた問題で授業や教科書をしっかり学習していれば解答できる。事例も適切であると考え(山形)
- ・過去問の流れ通りであった(茨城)
- ・学習内容に対して適切と思える(群馬)
- ・問題別の難易度が適切であるため(埼玉)
- ・問題が精査されており、幅広い分野から問題作成されている(千葉)
- ・記述が難しいと感じたが、それ以外は適切かと思います(山梨)
- ・選択肢の中で考える必要がある問題と、用語を答える問題のバランスが良かったと思います(石川)
- ・良問であった(福井)
- ・難易度はほぼ例年並みのように思えた。想定される思考時間が長い問題と短い問題のバランスが取れている(静岡)
- ・高校生にとって難しく感じる内容だが、高校生の目線に合わせた解きやすい適切な出題だった。用語が多い科目だが、身近に感じる出題内容が多かった(愛知)
- ・教科書の内容に沿っており適切であった(大阪)
- ・基本的な問題で法律を考えて判断する問題もあり、良問であった(和歌山)
- ・難易度は前回に比べ低下したかもしれないが、適切妥当な出題であった(鳥取)
- ・前年度合格率 41.3% → 今年度合格率 53.2%(広島)
- ・出題範囲や問題数も教科書に準じ適切な良問であったが、例年より難易度が高いように感じた(愛媛)
- ・問題の内容、レベルともに適切であった(佐賀)
- ・偏りがない出題であり、幅広い知識を問う良問(長崎)
- ・教科書に沿った内容であったと思う。選択問題も良問だったと思います(熊本)
- ・範囲全体からバランスよく出題されており、良問でした(大分)

2. 問題別の難易度について該当箇所に○印をご記入ください

また、ご意見がありましたら、その内容を記事欄にご記入ください

番号	難しい	適切	易しい	記 事
1	0	35	3	・出だしの問題として適切(鳥取)
2	0	36	2	・良問(鳥取)
3	0	35	3	・良問。問1で迷う生徒があるかもしれない(鳥取)
4	0	36	2	・考察する問題。良問である(鳥取)
5	0	34	4	・問3で悩む生徒あり。説明文が少し難しい。出題としては適切(鳥取) ・生徒の関心が高い単元であり、正答率が高かったためこのように判断した(長崎)
6	2	36	0	・押さえておきたいところ。問3選択出題としたのは適切(鳥取)
7	2	35	1	・年数は改訂が多いので、出題には検討が必要では無いか？(過去問を使っての学習に支障が出る。)(北海道) ・問1のみ難しく正答率が高くないと思う。出題としては適切(鳥取)
8	2	35	1	・基本を押さえた適切な出題(鳥取)
9	0	38	0	・きちんとした理解が求められる出題(鳥取)
10	0	35	3	・問2は考えさせる出題で良問(鳥取)
11	3	35	0	・適切、良問(鳥取)

番号	難しい	適切	易しい	記 事
12	2	35	1	・きちんとした理解が求められる出題(鳥取)
13	4	34	0	・抵当権が書けなかった(岩手) ・力の差が出る出題(鳥取)
14	1	36	0	・難しいが良問。事例も適切(山形) ・良問。問4を記号選択としたのは適切(鳥取)
会社に関する法1	0	35	1	・問2が易しいと感じます(石川) ・良問(鳥取)
会社に関する法2	0	36	0	・きちんとした理解が求められる出題(鳥取)
企業の責任と法1	0	35	2	・良問(鳥取)
企業の責任と法2	0	35	2	・良問(鳥取) ・クーリング・オフのカタカナ表記解答で教科書にはクーリング・オフ制度と記載されており、記述について迷った形跡のある答案がいくつかあった(鹿児島)

3. その他ご意見がありましたらお願いします

・選択問題にする必要性があるのかは疑問です。間違えて両方を答えたら0点になるのは、受験者にとって不利益でしかないように感じる(千葉)
 ・選択問題は、Ⅱの方が若干易しいと感じた(愛知)
 ・試験時間は30分でも良いと思います(兵庫)
 ・一年間学習し身に着けた力を問うのに適切、良問揃い。問作者の労苦が伺える。今回のような難易度を望む(鳥取)
 ・選択問題にする必要性は感じない(岡山)
 ・「クーリングオフ」は、「クーリングオフ制度」と捉えている生徒がおり、カタカナで〇〇字で解答させる問題はまぎらわしさがあつた(山口)
 ・解答欄に〇〇「代理」等、「代理」という記載は必要ないと思う(大分)

[5] 「ビジネス経済A」について

1. 問題は全般的に適切でしたか。

ア. 適切【22】 イ. 概ね適切【12】 ウ. 不適切【0】

その理由についてご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> ・難易度に関して、適切と感じました。時事が多く含まれる良問であった。(北海道) ・バランスの良い良問(岩手) ・事例についてタイムリーなものが適切に出題されており、良問(山形) ・現在の経済社会について思考・判断する良問であった(栃木) ・学習内容に対して適切と思える(群馬) ・問題別の難易度が適切であるため(埼玉) ・問題が精査されており、幅広い分野から問題作成されている(千葉) ・教科書にそった出題であり、最新の経済時事も含んでおり、とても適切である(富山) ・不適切というほどでもないが、やや優しい選択肢が多いと感じた(石川) ・時事に絡めた出題が多く、良問が多かった(愛知) ・基本的な問題であったから(三重) ・例年通りの傾向で適切であった(大阪) ・時事的な話題も織り交ぜられた良問であった(和歌山) ・こういったレベルの出題を続けて求めたい(鳥取) ・教科書に準じた問題で、過去問題に類題があり良問である(岡山) ・前年度合格率 65.3% → 今年度合格率 53.1%(広島) ・出題範囲に沿った出題で、時事問題も取り入れられており適切であったが、例年より難易度が上がったように感じた(愛媛) ・記述問題や計算問題も入れてほしい(佐賀) ・教科書の学習を基本としつつも、日頃から新聞・ニュース等で経済事情に向き合い、知識を活用していくような力を試す今回の出題は望ましく、良問(長崎) ・良問だと思います(大分)
--

2. 問題別の難易度について該当箇所に○印をご記入ください

また、ご意見がありましたら、その内容を記事欄にご記入ください

番号	難しい	適切	易しい	記 事
1	0	35	0	・良問(鳥取) ・問4 設問が何を問われているかわかりづらい(愛媛)
2	0	35	0	・良問(鳥取) ・問1「寡占」の書き間違えが多かった(岡山)
3	0	34	1	・ビジAでは必ず押さえておきたいところ。良問(鳥取) ・時事的な内容の問題で良かった(岡山)
4	3	32	0	・良問(鳥取)
5	1	32	2	・過去問題と同様のため(北海道) ・良問(鳥取)
6	2	33	0	・選択肢に「朝令暮改」とあり、その語句をしらない受験生もいるかもしれません。無くても前後の文面から意味は伝わるので、省いてもよかったと思います(石川) ・良問(鳥取)
7	1	33	0	・問3の選択肢「レモンの市場」or「レモン市場」どちらが正しいのか(千葉) ・問3 選択肢が不適切 次元の異なる選択肢に違和感を感じる(神奈川) ・問2正答率低いと思われる(鳥取) ・時事的な内容の問題で良かった(岡山) ・問2 難しい(愛媛)

番号	難しい	適切	易しい	記 事
8	2	33	0	・良い問題であった(北海道) ・良問(鳥取) ・問3 難しい(愛媛)
9	0	34	1	・良問(鳥取) ・問4 難しい(愛媛)
10	1	34	0	・(問3)労働供給量とは、人員数や人件費ではなくて、労働時間であると再認識される設問でした(滋賀) ・良問(鳥取) ・現在の経済事情を踏まえた良問だがやや難しい(長崎)
11	3	31	1	・(問2)選択肢の並び順は年代順(1950、1973、1979、または1979、1973、1950)でよいと思います(滋賀) ・しっかりと考えさせる良問(鳥取)
12	1	33	1	・(問3)「所得の保障」は「所得の補償」ではないでしょうか。一部の保険会社でも、所得補償保険(損害保険)と収入保障保険(生命保険)を提供しています。「一定の条件を満たした失業者が一定期間」にわたり対象とされるのだから、「所得の補償」というべきではないでしょうか(滋賀) ・良問(鳥取)
13	2	33	0	・良い問題であった(北海道) ・良問。問3の記述も適切(鳥取) ・問3の正答率が低かった(岡山)
14	0	33	0	・問3の問題は受験者に深く考えを巡らせる問題と思いました(千葉) ・良問(鳥取)

3. その他ご意見がありましたらお願いします

- ・「生み出す」を「うみ出す」と表記することは、何か理由があるのでしょうか(石川)
- ・専門用語も多く、生徒にとってはしっかり時間を取って理解を深める必要がある。一年間の学習成果、実力を見るのに適切かつ妥当な出題であった(鳥取)
- ・最新の時事問題なども取り入れた問題であり、日々の社会経済に関連している良問と思います。今年度から試験時間が50分に変更となり良いと思います(岡山)
- ・記述問題が、例年より回答率が低かった(愛媛)
- ・今後とも時事問題を増やしてもらいたい。日頃の授業も時事問題を扱いながら、教科書を進めることが大切だと思うからです(佐賀)
- ・過去問の中から同じ問題が出題されています(大分)

[6] 「ビジネス経済B」について

1. 問題は全般的に適切でしたか。

ア. 適切【22】 イ. 概ね適切【11】 ウ. 不適切【1】

その理由についてご記入ください。

- ・学習範囲の中から、バランスよく出題されていると感じました(北海道)
- ・記述用語が同じような用語が多い。他のマーケ・経法と比べて、合格率が低すぎる(岩手)
- ・現在の経済社会に関して問う問題であり、よく考えられた内容であった。良問である(栃木)
- ・学習内容に対して適切と思える(群馬)
- ・問題別の難易度が適切であるため(埼玉)
- ・問3の問題は受験者に深く考えを巡らせる問題と思いました(千葉)
- ・記述、選択ともバランスとれてよいと思います。全体的に問題の文章が長い印象です(山梨)
- ・本文や選択肢の作りが不適切な箇所が多いため(神奈川)
- ・教科書の内容をしっかりと理解していれば回答できる良問である(富山)
- ・選択肢の中で考える必要がある問題と、用語を答える問題のバランスが良かったと思います(石川)
- ・どの問題も良問であった(福井)
- ・基礎基本をおさえれば合格点が取れる問題であると感じた(愛知)
- ・時事的な話題も織り交ぜられた良問であった(和歌山)
- ・難しい部分もあるが、出題全体としては良問ぞろいである。高校生としてこういった内容が理解されておればかなりの力がついていることが伺える出題である。難易度は前回より上昇した感じはする(鳥取)
- ・良問である(岡山)
- ・前年度合格率 40.0% → 今年度合格率 40.0%(広島)
- ・出題範囲に沿った出題で、難易度も問題数も適切であった(愛媛)
- ・問題の内容、レベルともに適切であった(佐賀)
- ・時事問題の取り扱いが適切であったとおもいます。設問が簡潔で読みやすさを感じました(熊本)
- ・良問だと思います(大分)
- ・出題も規準通りで適切である(宮崎)

2. 問題別の難易度について該当箇所に○印をご記入ください

また、ご意見がありましたら、その内容を記事欄にご記入ください

番号	難しい	適切	易しい	記 事
1	0	35	0	・問2 あえて出題する意図が不明 本文「こんにちは」は「今日」でよいのでは(神奈川) ・良問。問2は記号選択の出題で良問(鳥取)
2	0	36	0	・問3の用語に戸惑う生徒が多くいるのではないかと(鳥取) ・問3 難しい(愛媛)
3	1	34	0	・問3 正解とするウが何をいっているのか不明 本文「こんにちは」は「今日」でよいのでは(神奈川) ・考えさせる良問(鳥取)
4	2	34	0	・教科書、問題集をしっかりとやって理解を深めておく必要あり。理解力確認としての出題として最適(鳥取)
5	1	35	0	・問2 選択肢の次元をそろえるべき(神奈川) ・内容をしっかりと押さえておきたいところであり、出題として適切(鳥取)
6	2	34	0	・良問ぞろいだが、正答率は高くないのでは。問3は4文字は難しいのでは。2文字(先物)だけの記述とならないか(鳥取)
7	4	32	0	・日頃からニュースを見ていないと解けない問題である(富山) ・問1と問3は難解。考え抜けば何とか正答できるかもしれないが正答率は低いと思われる(鳥取)

番号	難しい	適切	易しい	記 事
8	3	33	0	・現総理大臣の個人名は出さないほうがよい（辞職の可能性があるので）（富山） ・良問ぞろいだが、高校生にとっては正答率は高くないのでは。問4は日頃経済をどれだけ意識しているか問うのに良い問題であった（鳥取）
9	2	34	0	・良問（鳥取）
10	2	34	0	・問4は難解（鳥取）
11	0	35	0	・本文10～11行目、CO2?2は下付き1/4では。A社では…の記述が日本語の文章になっていない。（神奈川） ・問2は選択問題であり何とか正答できる出題（鳥取） ・問1 表現が難しくて答えられない生徒が多くいた（愛媛）
12	2	34	0	・良問（鳥取）
13	1	35	0	・良問（鳥取）
14	0	36	0	・良問（鳥取）

3. その他ご意見がありましたらお願いします

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・他県や他校の状況は分からないが、受験生が少ない科目は、検定の必要性を検討する必要がある(岡山) ・受験申込が、令和3年度6名, 今年度14名である(広島) |
|---|

[7] 「新学習指導要領の商業経済検定試験関連科目の開設等」について

※1 回答都道府県本部校 45校

※2 同一校で複数学年にて選択科目として履修予定校があるため、合計数は一致しません。

(1) ビジネス基礎

1学年		2学年		3学年	
全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修
44	1	1	2		1

※ ビジネス基礎は、商業に関する学科における原則履修科目です。履修計画のない場合は、その理由を記述してください。(例. 総合学科 学校設定科目で代替)

総合学科 商業科以外の科目の生徒が履修

(2) マーケティング分野

	1学年		2学年		3学年	
	全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修
マーケティング	2		11	28	2	11
商品開発と流通				13		24
観光ビジネス			2	13	3	20

(3) マネジメント分野

	1学年		2学年		3学年	
	全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修	全生徒履修	選択科目として履修
ビジネス・マネジメント				11	2	21
グローバル経済				13	2	21
ビジネス法規				9	8	26

(4) 新検定試験の実施に向けてのご意見・ご要望等がありましたら記入願います。

<ul style="list-style-type: none"> •教育課程が変わり、今後の難易度について、どうなっていくのか不安の声があった。今回は時間の短縮だけであったが、内容が出題傾向の変更についてなど、今後の検定試験のあり方について不安(茨城) •他の科目と同様に教科書中心で作成していただけると指導しやすいので助かります。(石川) •新分野についても難易度等旧分野を継続していただきたい。(長野) •独自の(どのような)学校設定科目が教育課程に組み込まれていますか。(鳥取) •ビジネス基礎を合わせると7科目ありますが、全科目、検定実施しますか？担当者としては7科目の検定にはしないほしい。(岡山) •サンプル問題を早やめに提示いただくと助かります。(山口) •思考・判断・表現力を問うために、記述問題を増やして欲しいとの要望が一部ありました。(佐賀)
--

令和4年度 科目別・項目別出題基準

科目・項目は、文部科学省高等学校学習指導要領・商業編の分類による。

【3級科目】

ビジネス基礎

- (1) 商業の学習とビジネス
- ※ (2)～(5) に含める
- (2) ビジネスに対する心構え 5問
- (3) 経済と流通 20問
- (4) 取引とビジネス計算 15問
- (5) 企業活動 10問
- (6) 身近な地域のビジネス
- ※ (2)～(5) に含める

各2点・計50問

※形式別の出題内訳は以下の通りとする。

直接解答型 20問 (4題×5問), 本文参照型 30問

※直接解答型の出題形式は以下の4種類とする。

- ①関連事項の結合問題
- ②一定条件による細目分類問題
- ③解答群付きの空欄補充問題
- ④下線部の正誤判定・訂正問題

【1・2級科目】

マーケティング

- (1) 現代市場とマーケティング 7問
- (2) 市場調査 7問
- (3) 消費者の購買行動 6問
- (4) 商品計画と価格の決定 15問
- (5) 販売経路と販売促進 15問

各2点・計50問

経済活動と法

- (1) 経済社会と法 5問
- (2) 権利・義務と財産権 15問
- (3) 取引に関する法 25問
- ※「手形と小切手の利用」と「金融取引」については、
- (4) に含める。
- (4) 会社に関する法 (5問) } 5問
- (5) 企業の責任と法 (5問) }

各2点・計50問

※(4)と(5)は、いずれか1項目(5問)を選択するものとする。

ビジネス経済A

- (1) ビジネスと経済 7問
- (2) 需要と供給 7問
- (3) 価格決定と市場の役割 11問
- (4) 経済成長と景気循環 15問
- (5) 経済政策 10問

各2点・計50問

ビジネス経済B

- (1) サービス経済化とサービス産業 6問
- (2) 経済の国際化 15問
- (3) 金融市場と資本市場 7問
- (4) 企業経営 15問
- (5) ビジネスの創造と地域産業の振興 7問

各2点・計50問

- a. 設問数はいずれも基準であり、年度によって各項目の設問に若干の異同がある。
- b. 3級科目の出題形式は直接解答型と本文参照型とし、1・2級科目はすべて本文参照型とする。
- c. 1・2級科目については、3級の内容を踏まえたものとする。

令和4年度(第37回) 商業経済検定試験申込者・受験者・合格者数一覧表(令和5年2月5日実施)

NO	都道府県	本部校名	試験場校数	分会場校数	ビジネス基礎			マーケティング			経済活動と法			ビジネス経済A			ビジネス経済B			合計			1級合格者	2級合格者	合格者数総計	
					申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格				
1	北海道	釧路商	32	4	378	333	240	1,956	1,804	1,403	757	651	430	901	823	473	137	123	37	3,779	3,200	2,159	704	1,287	2,231	
2	青森県	三沢商	7	1	147	137	118	314	283	159	144	138	80	87	81	36	14	13	3	874	831	507	75	163	356	
3	岩手県	大東商	16	3	864	824	650	682	618	433	409	350	238	325	293	148	253	189	66	2,802	2,659	1,704	327	403	1,380	
4	宮城県	鹿島台商	9	2	545	435	366	403	345	290	219	133	99	166	142	112	34	29	11	1,589	1,478	1,239	174	198	738	
5	秋田県	仁賀保	7	1	364	357	301	201	197	146	69	68	33	163	159	116	0	0	0	828	784	575	71	148	520	
6	山形県	酒田光陵	8	2	595	562	518	494	467	315	208	166	103	308	296	181	56	54	33	1,849	1,756	1,204	268	247	1,033	
7	福島県	帝京安積	14	1	246	225	147	632	608	492	195	167	91	174	160	101	5	5	5	999	909	660	150	441	738	
8	茨城県	土浦第三	12	0	232	211	130	886	845	693	377	351	243	727	686	434	2	2	1	2,206	2,120	1,596	645	667	1,442	
9	栃木県	宇都宮商	17	0	1,241	1,156	881	1,396	1,286	857	592	519	284	915	880	582	295	268	68	4,500	4,155	2,691	797	561	2,239	
10	群馬県	利根商	11	1	847	818	713	1,216	1,137	869	884	735	463	608	558	354	619	522	136	5,104	4,828	3,256	922	612	2,247	
11	埼玉県	幸手桜	20	1	1,423	1,328	957	1,198	1,128	807	672	573	373	577	496	212	116	68	17	3,668	3,279	2,238	444	817	2,218	
12	千葉県	千葉商	13	0	742	691	513	879	789	576	271	231	164	354	317	182	8	7	7	2,264	2,109	1,482	314	441	1,268	
13	山梨県	富士北稜	8	0	361	339	286	390	320	220	303	217	101	252	212	142	66	23	4	1,518	1,296	834	148	233	667	
14	東京都	葛飾商	14	0	1,253	1,079	738	630	553	375	307	212	129	401	358	183	95	90	35	2,762	2,347	1,528	253	337	1,328	
15	神奈川県	横浜商	7	2	96	86	70	548	500	389	310	283	197	98	89	55	27	26	15	1,076	986	648	200	302	572	
16	新潟県	長岡商	12	1	378	360	283	686	664	549	494	466	344	69	62	37	17	16	8	2,010	1,948	1,596	488	410	1,181	
17	富山県	高岡商	7	1	589	533	448	661	604	438	309	264	148	708	639	390	144	124	41	2,325	2,165	1,555	471	299	1,218	
18	石川県	大聖寺実業	13	0	561	533	396	422	382	264	95	74	35	273	248	162	20	19	11	1,204	1,133	916	176	142	714	
19	福井県	坂井	8	1	212	196	149	593	534	388	169	153	59	441	401	236	48	46	22	764	699	451	210	332	691	
20	長野県	須坂創成	10	0	366	356	322	586	549	395	733	642	287	133	110	56	23	20	7	1,714	1,620	1,066	203	448	973	
21	静岡県	磐田西	22	0	686	624	508	1,851	1,733	1,215	556	480	239	320	288	172	140	114	53	3,510	3,241	2,171	403	1,017	1,928	
22	愛知県	岡崎商	30	2	1,656	1,513	1,109	1,337	1,230	920	310	285	204	465	425	301	123	103	48	4,167	3,778	2,839	424	793	2,326	
23	岐阜県	関商工	17	1	259	246	198	1,210	1,115	801	285	250	158	878	816	488	39	38	17	2,892	2,582	1,779	499	746	1,443	
24	三重県	松阪商	9	0	549	513	436	332	309	193	65	57	32	194	187	117	37	34	15	1,166	1,128	829	128	133	697	
25	滋賀県	日野	6	1	38	35	26	332	314	217	3	3	1	294	281	180	5	2	1	658	637	463	130	151	307	
26	京都府	丹後緑風	5	0	25	25	17	249	209	128	74	60	41	108	83	44	0	0	0	257	227	174	58	128	203	
27	大阪府	淀商	8	0	458	377	256	368	306	172	52	48	20	165	146	54	4	3	2	1,452	1,111	617	67	134	457	
28	兵庫県	神港橘	23	0	1,016	890	622	1,356	1,202	797	562	468	245	814	736	422	103	92	45	3,789	3,276	2,118	539	659	1,820	
29	奈良県	奈良実業/奈良商工	4	0	355	320	230	347	322	284	278	265	224	72	66	33	6	6	2	971	890	686	244	239	713	
30	和歌山県	神島	4	0	84	78	61	420	391	283	64	57	39	242	222	96	15	13	6	1,006	892	617	138	191	390	
31	鳥取県	鳥取商	3	0	293	275	232	87	84	69	38	36	24	92	87	67	117	109	40	804	778	561	67	78	377	
32	島根県	松江商	6	0	372	346	277	354	305	209	76	59	18	130	116	68	82	78	42	1,026	960	699	125	142	544	
33	岡山県	岡山東商	21	1	1,332	1,190	1,018	1,422	1,274	987	194	144	80	707	568	377	458	422	203	4,481	4,097	3,143	621	794	2,433	
34	広島県	広島商	10	1	400	362	224	636	508	317	127	109	58	223	209	111	6	5	2	1,608	1,314	758	158	262	644	
35	山口県	萩商工	12	0	692	652	542	612	581	433	193	182	119	252	245	158	15	13	9	2,024	1,953	1,542	291	318	1,151	
36	香川県	高松商	9	2	416	386	281	436	401	281	241	211	106	77	75	45	59	56	27	1,259	1,162	776	133	263	677	
37	徳島県	徳島商	10	0	527	479	352	414	355	151	19	19	13	194	168	54	44	35	7	550	495	254	58	123	533	
38	愛媛県	宇和島東	19	5	809	732	564	882	806	598	563	485	296	886	801	485	491	413	177	3,838	3,563	2,469	726	478	1,768	
39	高知県	高知商	5	1	54	51	22	362	322	250	2	2	0	301	268	216	9	8	6	797	735	611	216	239	477	
40	福岡県	宇美商	17	0	1,047	979	755	993	885	629	112	94	42	459	389	272	4	3	3	2,409	2,141	1,511	305	487	1,547	
41	佐賀県	鳥栖商	9	0	563	537	456	263	250	194	79	77	46	162	159	123	12	12	9	1,232	1,156	865	163	121	740	
42	長崎県	佐世保商	11	1	869	846	716	596	565	402	86	74	38	385	357	219	10	7	6	1,868	1,778	1,409	245	292	1,253	
43	熊本県	八代東	16	2	1,192	1,097	946	639	558	366	324	234	112	240	211	117	11	11	6	2,699	2,463	1,658	205	348	1,499	
44	大分県	大分商	15	1	906	837	674	513	466	340	392	314	178	210	187	107	15	15	5	2,026	1,919	1,409	207	338	1,219	
45	宮崎県	小林秀峰	13	0	156	133	78	596	545	309	99	90	47	411	378	191	50	49	12	1,179	1,096	636	198	272	548	
46	鹿児島県	串良商	31	0	1,535	1,408	940	1,362	1,244	672	478	429	193	495	463	257	52	41	16	3,946	3,631	2,283	398	649	1,987	
47	沖縄県	名護商工	9	0	879	710	476	319	263	176	80	61	28	102	75	46	6	3	0	1,647	1,383	815	67	133	676	
合計			589	39	28,608	26,200	20,242	33,061	30,156	21,451	12,869	10,986	6,502	16,558	15,016	9,012	3,892	3,329	1,286	94,988	85,687	58,493	13,853	18,016	52,111	
合格率						77.3%			71.1%			59.2%			60.0%			38.6%			69.5%					

令和4年度(第37回) 商業経済検定試験受験者数一覧表

2023.2.25現在

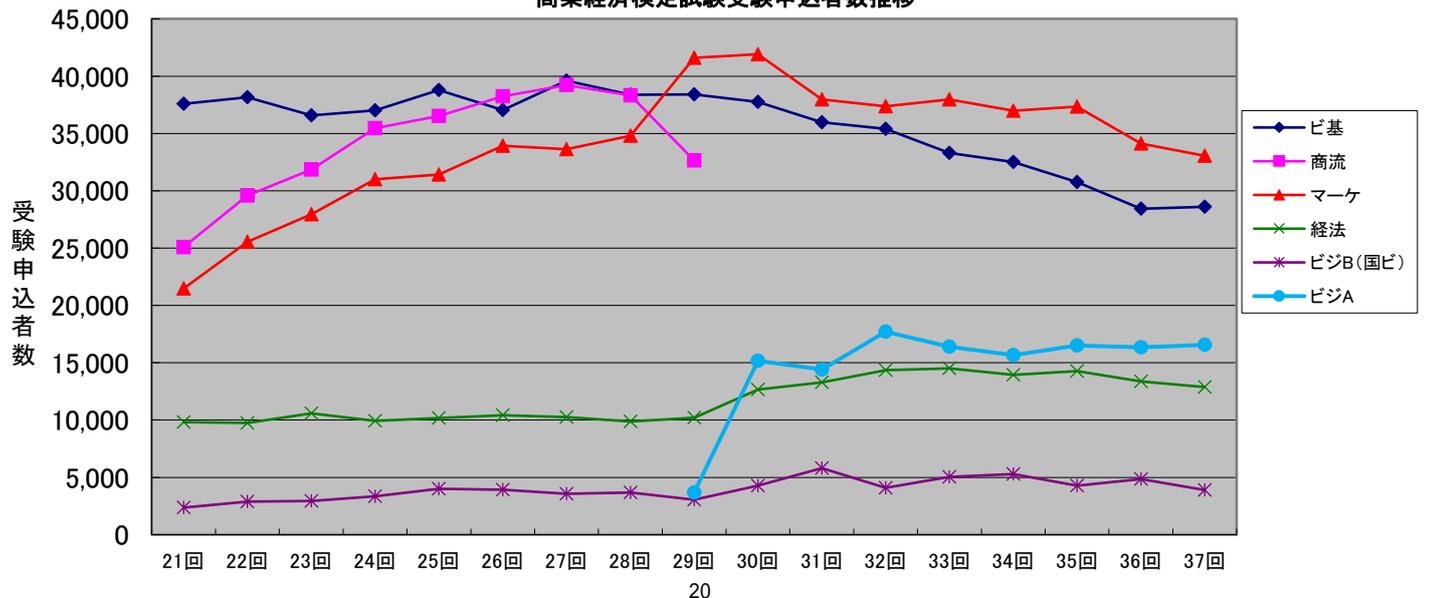
NO.	都道府県名	本部校名	試験場校	分会場校	ビジネス基礎			マーケティング			経済活動と法			ビジネス経済A			ビジネス経済B			R4 受験者 合計	R3	前年度 比較
					R4	R3	増減	R4	R3	増減	R4	R3	増減	R4	R3	増減	R4	R3	増減			
1	北海道	釧路商	32	4	378	398	-20	1,956	1,742	214	757	730	27	901	755	146	137	154	-17	4,129	3,779	350
2	青森県	三沢商	7	1	147	188	-41	314	354	-40	144	229	-85	87	101	-14	14	2	12	706	874	-168
3	岩手県	大東	16	3	864	794	70	682	843	-161	409	408	1	325	449	-124	253	308	-55	2,533	2,802	-269
4	宮城県	鹿島台商	9	2	545	719	-174	403	356	47	219	309	-90	166	173	-7	34	32	2	1,367	1,589	-222
5	秋田県	仁賀保	7	1	364	381	-17	201	217	-16	69	65	4	163	160	3	0	5	-5	797	828	-31
6	山形県	酒田光陵	8	2	595	567	28	494	679	-185	208	179	29	308	312	-4	56	112	-56	1,661	1,849	-188
7	福島県	帝京安積	14	1	246	96	150	632	550	82	195	187	8	174	156	18	5	10	-5	1,252	999	253
8	茨城県	土浦第三	12	0	232	244	-12	886	701	185	377	453	-76	727	802	-75	2	6	-4	2,224	2,206	18
9	栃木県	宇都宮商	17	0	1,241	1,304	-63	1,396	1,245	151	592	589	3	915	1,070	-155	295	292	3	4,439	4,500	-61
10	群馬県	利根商	11	1	847	526	321	1,216	1,570	-354	884	1,091	-207	608	690	-82	619	1,227	-608	4,174	5,104	-930
11	埼玉県	幸手桜	20	1	1,423	1,370	53	1,198	1,242	-44	672	514	158	577	423	154	116	119	-3	3,986	3,668	318
12	千葉県	千葉商	13	0	742	737	5	879	933	-54	271	273	-2	354	302	52	8	19	-11	2,254	2,264	-10
13	山梨県	富士北稜	8	0	361	434	-73	390	526	-136	303	211	92	252	289	-37	66	58	8	1,372	1,518	-146
14	東京都	葛飾商	14	0	1,253	1,219	34	630	613	17	307	341	-34	401	496	-95	95	93	2	2,686	2,762	-76
15	神奈川県	横浜商	7	2	96	68	28	548	586	-38	310	287	23	98	119	-21	27	16	11	1,079	1,076	3
16	新潟県	長岡商	12	1	378	414	-36	686	840	-154	494	532	-38	69	224	-155	17	0	17	1,644	2,010	-366
17	富山県	高岡商	7	1	589	589	0	661	724	-63	309	376	-67	708	486	222	144	150	-6	2,411	2,325	86
18	石川県	大聖寺実業	13	0	561	486	75	422	398	24	95	58	37	273	250	23	20	12	8	1,371	1,204	167
19	福井県	坂井	8	1	212	206	6	593	198	395	169	150	19	441	138	303	48	72	-24	1,463	764	699
20	長野県	須坂創成	10	0	366	466	-100	586	544	42	733	562	171	133	102	31	23	40	-17	1,841	1,714	127
21	静岡県	磐田西	22	0	686	1,058	-372	1,851	1,546	305	556	491	65	320	384	-64	140	31	109	3,553	3,510	43
22	愛知県	岡崎商	30	2	1,656	1,528	128	1,337	1,450	-113	310	487	-177	465	543	-78	123	159	-36	3,891	4,167	-276
23	岐阜県	関商工	17	1	259	566	-307	1,210	1,154	56	285	287	-2	878	854	24	39	31	8	2,671	2,892	-221
24	三重県	松阪商	9	0	549	478	71	332	417	-85	65	52	13	194	162	32	37	57	-20	1,177	1,166	11
25	滋賀県	日野	6	1	38	1	37	332	320	12	3	58	-55	294	275	19	5	4	1	672	658	14
26	京都府	丹後緑風	5	0	25	7	18	249	154	95	74	53	21	108	43	65	0	0	0	456	257	199
27	大阪府	淀商	8	0	458	713	-255	368	478	-110	52	103	-51	165	150	15	4	8	-4	1,047	1,452	-405
28	兵庫県	神港橘	23	0	1,016	746	270	1,356	1,373	-17	562	648	-86	814	865	-51	103	157	-54	3,851	3,789	62
29	奈良県	奈良朱雀/奈良商工	4	0	355	348	7	347	343	4	278	219	59	72	54	18	6	7	-1	1,058	971	87
30	和歌山県	神島	4	0	84	80	4	420	496	-76	64	56	8	242	293	-51	15	81	-66	825	1,006	-181
31	鳥取県	鳥取商	3	0	293	315	-22	87	211	-124	38	103	-65	92	88	4	117	87	30	627	804	-177
32	島根県	松江商	6	0	372	345	27	354	387	-33	76	56	20	130	173	-43	82	65	17	1,014	1,026	-12
33	岡山県	岡山東商	21	1	1,332	1,435	-103	1,422	1,553	-131	194	254	-60	707	832	-125	458	407	51	4,113	4,481	-368
34	広島県	広島商	10	1	400	356	44	636	856	-220	127	187	-60	223	195	28	6	14	-8	1,392	1,608	-216
35	山口県	萩商工	12	0	692	773	-81	612	634	-22	193	231	-38	252	379	-127	15	7	8	1,764	2,024	-260
36	香川県	高松商	9	2	416	347	69	436	512	-76	241	241	0	77	23	54	59	136	-77	1,229	1,259	-30
37	徳島県	徳島商	10	0	527	285	242	414	174	240	19	13	6	194	51	143	44	27	17	1,198	550	648
38	愛媛県	宇和島東	19	5	809	789	20	882	1,140	-258	563	595	-32	886	799	87	491	515	-24	3,631	3,838	-207
39	高知県	高知商	5	1	54	149	-95	362	318	44	2	6	-4	301	320	-19	9	4	5	728	797	-69
40	福岡県	宇美商	17	0	1,047	851	196	993	945	48	112	136	-24	459	466	-7	4	11	-7	2,615	2,409	206
41	佐賀県	鳥栖商	9	0	563	549	14	263	433	-170	79	94	-15	162	153	9	12	3	9	1,079	1,232	-153
42	長崎県	佐世保商	11	1	869	803	66	596	624	-28	86	62	24	385	354	31	10	25	-15	1,946	1,868	78
43	熊本県	八代東	16	2	1,192	1,158	34	639	788	-149	324	346	-22	240	387	-147	11	20	-9	2,406	2,699	-293
44	大分県	大分商業	15	1	906	910	-4	513	548	-35	392	377	15	210	167	43	15	24	-9	2,036	2,026	10
45	宮崎県	小林秀峰	13	0	156	117	39	596	659	-63	99	86	13	411	245	166	50	72	-22	1,312	1,179	133
46	鹿児島県	串良商	31	0	1,535	1,605	-70	1,362	1,290	72	478	494	-16	495	414	81	52	143	-91	3,922	3,946	-24
47	沖縄県	名護商工	9	0	879	912	-33	319	451	-132	80	99	-19	102	167	-65	6	18	-12	1,386	1,647	-261
		合計	589	39	28,608	28,430	178	33,061	34,115	-1,054	12,869	13,378	-509	16,558	16,333	225	3,892	4,840	-948	94,988	97,096	-2,108

商業経済検定試験受験者・合格者数集計一覧表

2023/2/25

回数	実施期日		受験申込者数	昨年比	実受験者数	合格者数	合格率	
第27回	平成25年2月3日(日)	ビジネス基礎	39,604	2,652	37,040	29,797	80.4%	
		商品と流通	39,216	997	36,053	15,271	42.4%	
		マーケティング	33,621	-304	30,823	14,848	48.2%	
		経済活動と法	10,262	-149	9,141	2,814	30.6%	
		国際ビジネス	3,576	-355	3,192	931	29.2%	
		計	126,279	2,841	116,249	63,661	54.8%	
		1級				12,330		
		2級				14,191		
		3級				25,064		70.1%
		4級				18,514		51.8%
第28回	平成26年2月2日(日)	ビジネス基礎	38,368	-1,236	35,762	25,064	70.1%	
		商品と流通	39,321	-895	35,735	18,514	51.8%	
		マーケティング	34,761	1,170	32,399	11,571	35.7%	
		経済活動と法	9,888	-374	6,966	3,585	40.0%	
		国際ビジネス	9,882	106	3,275	767	23.4%	
		計	125,050	-1,229	116,137	59,501	51.2%	
		1級				12,316		
		2級				15,601		
		3級				25,936		72.0%
		4級				15,260		49.9%
第29回	平成27年2月1日(日)	ビジネス基礎	38,339	-29	36,002	25,936	72.0%	
		商品と流通	32,606	-5,715	30,595	15,260	49.9%	
		マーケティング	41,570	6,779	38,645	15,014	38.9%	
		経済活動と法	10,188	300	9,265	4,508	48.7%	
		国際ビジネス	3,033	-649	2,704	983	21.6%	
		ビジネス経済A	3,678		3,477	978	28.1%	
		計	129,414	4,364	120,678	62,279	51.6%	
		1級				13,688		
		2級				15,848		
		3級				26,042		73.7%
4級				14,756		38.3%		
第30回	平成28年2月7日(日)	ビジネス基礎	37,747	-592	35,346	26,042	73.7%	
		商品と流通	41,915	345	38,521	14,756	38.3%	
		マーケティング	12,625	2,437	11,449	3,149	27.7%	
		経済活動と法	15,186	11,508	13,847	3,173	22.9%	
		国際ビジネス	4,273	1,240	3,852	1,246	32.3%	
		計	111,746	-17,668	102,920	49,368	47.0%	
		1級				8,232		
		2級				11,369		
		3級				26,672		79.3%
		4級				21,193		61.4%
第31回	平成29年2月5日(日)	ビジネス基礎	35,986	-1,761	33,653	26,672	79.3%	
		商品と流通	37,956	-3,959	34,514	19,193	56.1%	
		マーケティング	13,293	668	11,779	4,619	39.2%	
		経済活動と法	14,414	-772	12,924	6,821	52.8%	
		国際ビジネス	5,805	1,532	5,280	1,205	22.8%	
		計	107,454	-4,292	98,150	60,510	61.7%	
		1級				10,029		
		2級				18,774		
		3級				26,168		79.5%
		4級				16,529		48.4%
第32回	平成30年2月4日(日)	ビジネス基礎	35,407	-579	32,928	26,168	79.5%	
		商品と流通	37,380	-576	34,147	16,529	48.4%	
		マーケティング	14,345	1,052	12,836	5,231	40.8%	
		経済活動と法	14,707	3,293	16,154	6,709	41.5%	
		国際ビジネス	4,076	-1,729	3,647	1,651	45.3%	
		計	108,915	1,461	99,712	56,288	56.5%	
		1級				10,519		
		2級				14,983		
		3級				19,035		61.2%
		4級				16,134		46.4%
第33回	平成31年2月3日(日)	ビジネス基礎	33,294	-2,113	31,085	19,035	61.2%	
		商品と流通	37,968	588	34,767	16,134	46.4%	
		マーケティング	14,506	161	13,089	6,647	50.8%	
		経済活動と法	16,409	-1,298	15,005	7,950	53.0%	
		国際ビジネス	5,048	972	4,663	2,502	53.7%	
		計	107,225	-1,690	98,609	52,268	53.0%	
		1級				11,750		
		2級				16,084		
		3級				24,568		80.3%
		4級				14,838		43.2%
第34回	令和2年2月2日(日)	ビジネス基礎	32,498	-796	30,600	24,568	80.3%	
		商品と流通	36,989	-979	34,387	14,838	43.2%	
		マーケティング	13,955	-551	12,757	7,639	59.9%	
		経済活動と法	15,660	-749	14,651	9,395	64.1%	
		国際ビジネス	5,285	237	4,791	1,933	40.3%	
		計	104,387	-2,838	97,186	58,373	60.1%	
		1級				12,701		
		2級				15,379		
		3級				25,099		85.4%
		4級				23,467		66.5%
第35回	令和3年2月7日(日)	ビジネス基礎	30,753	-1,745	29,403	25,099	85.4%	
		商品と流通	37,337	348	35,291	23,467	66.5%	
		マーケティング	14,279	324	13,085	6,982	53.4%	
		経済活動と法	16,518	858	15,649	9,823	62.8%	
		国際ビジネス	4,264	-1,021	3,874	2,328	60.1%	
		計	103,151	-1,236	97,302	67,699	69.6%	
		1級				14,667		
		2級				20,143		
		3級				26,162		80.0%
		4級				20,785		66.6%
第36回	令和4年2月6日(日)	ビジネス基礎	28,430	-2,323	26,162	20,930	80.0%	
		商品と流通	34,115	-3,222	31,195	20,785	66.6%	
		マーケティング	13,378	-901	11,955	6,914	57.8%	
		経済活動と法	16,333	-185	14,996	10,808	72.1%	
		国際ビジネス	4,840	576	4,380	2,160	49.3%	
		計	97,096	-6,055	88,688	61,597	69.5%	
		1級						
		2級						
		3級				26,200		77.3%
		4級				21,451		71.1%
第37回	令和5年2月4日(日)	ビジネス基礎	28,608	178	26,200	20,242	77.3%	
		商品と流通	33,061	-1,054	30,156	21,451	71.1%	
		マーケティング	12,689	-689	10,986	6,502	59.2%	
		経済活動と法	16,558	225	15,016	9,012	60.0%	
		国際ビジネス	3,892	-948	3,329	1,286	38.6%	
		計	94,808	-2,288	85,687	58,493	68.3%	
		1級						
		2級						

商業経済検定試験受験申込者数推移



令和4年度 第37回商業経済検定試験 第1級満点賞一覧表

No.	年度	回数	都道府県	在籍校	学年	該当科目
1	令和4年度	37	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	1	マーケティング ビジネス経済A
2			千葉県	習志野市立習志野高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
3			山口県	山口県立萩商工高等学校	3	マーケティング ビジネス経済A

<商業経済検定試験 第1級満点賞>

- ・同一年度受験の1級対象科目のうち、2科目以上で満点を得たものには、満点賞を授与する。
- ・平成8年度第11回検定より実施

<過去の受賞歴>

No.	年度	回数	都道府県	所属学校名	学年	該当科目
1	平成8年度	11	沖縄県	沖縄県立南風原高等学校	1	商業経済 商業法規
2	平成22年度	25	静岡県	城南静岡高等学校	3	商品と流通 マーケティング
3	平成28年度	31	福島県	福島県立白河実業高等学校	3	マーケティング ビジネス経済A
4			山口県	山口県立防府商工高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
5	平成29年度	32	三重県	三重県立四日市商業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
6	平成30年度	33	群馬県	太田市立太田高等学校	3	マーケティング 経済活動と法
7			福井県	福井県立福井商業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
8			愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校	1	マーケティング ビジネス経済A
9	令和2年度	35	静岡県	静岡県立静岡商業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
10			愛知県	愛知県立東海商業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
11			山口県	山口県立岩国商業高等学校	2	マーケティング 経済活動と法
12	令和3年度	36	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	1	マーケティング ビジネス経済A
13			埼玉県	埼玉県立八潮南高等学校	3	マーケティング ビジネス経済A
14			岐阜県	岐阜県立東濃実業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A
15			和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校	2	マーケティング ビジネス経済A

令和4年度 第37回商業経済検定試験 全科目合格者表彰一覧表

No	都道府県	学校名	表彰者数	
			学校別	都道府県別
1	北海道	北海道札幌東商業高等学校	1	14
2		北海道千歳高等学校	3	
3		北海道旭川商業高等学校	1	
4		北海道苫小牧総合経済商業高等学校	2	
5		北海道帯広南商業高等学校	7	
6	青森県	青森県立八戸商業高等学校	2	2
7	岩手県	岩手県立盛岡商業高等学校	22	57
8		岩手県立水沢商業高等学校	32	
9		岩手県立宮古商工高等学校	2	
10		岩手県立大東高等学校	1	
11	宮城県	宮城県登米総合産業高等学校	3	5
12		東北生活文化大学高等学校	2	
13	山形県	山形県立米沢商業高等学校	5	22
14		山形県立上山明新館高等学校	1	
15		山形市立商業高等学校	16	
16	福島県	福島県立福島南高等学校	1	1
17	茨城県	茨城県立鬼怒商業高等学校	1	1
18	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	36	64
19		栃木県立宇都宮白楊高等学校	1	
20		栃木県立鹿沼商工高等学校	9	
21		栃木県立栃木商業高等学校	7	
22		栃木県立佐野松桜高等学校	5	
23		栃木県立足利清風高等学校	5	
24		栃木県立真岡北陵高等学校	1	
25	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	72	72
26	埼玉県	埼玉県立岩槻商業高等学校	1	5
27		埼玉県立浦和商業高等学校	1	
28		埼玉県立大宮商業高等学校	2	
29		筑波大学附属坂戸高等学校	1	
30	千葉県	千葉県立一宮商業高等学校	1	12
31		千葉経済大学附属高等学校	9	
32		千葉商科大学付属高等学校	1	
33		東京学館船橋高等学校	1	
34	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	3	3
35	東京都	東京都立芝商業高等学校	1	12
36		東京都立第一商業高等学校	6	
37		東京都立第三商業高等学校	1	
38		東京都立第五商業高等学校	4	
39	神奈川県	神奈川県立平塚農商高等学校	1	5
40		神奈川県立厚木商業高等学校	1	
41		横浜市立横浜商業高等学校	3	
42	新潟県	新潟県立三条商業高等学校	2	2
43	富山県	富山県立富山商業高等学校	8	20
44		富山県立高岡商業高等学校	6	
45		富山県立富山北部高等学校	1	
46		富山県立新湊高等学校	2	
47		富山県立氷見高等学校	3	
48	石川県	石川県立金沢商業高等学校	6	11
49		石川県立大聖寺実業高等学校	1	
50		石川県立小松商業高等学校	4	

No	都道府県	学校名	表彰者数	
			学校別	都道府県別
51	福井県	福井県立武生商工高等学校	3	3
52	長野県	松商学園高等学校	6	6
53	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	1	4
54		富士市立高等学校	3	
55	愛知県	愛知県立愛知商業高等学校	4	18
56		愛知県立春日井商業高等学校	1	
57		愛知県立一宮商業高等学校	1	
58		愛知県立犬山高等学校	6	
59		愛知県立古知野高等学校	2	
60		愛知県立岡崎商業高等学校	1	
61		愛知県立豊橋商業高等学校	1	
62		名古屋市立西陵高等学校	1	
63		至学館高等学校	1	
64		岐阜県	岐阜県立東濃実業高等学校	
65	関市立関商工高等学校		2	
66	三重県	三重県立津商業高等学校	2	3
67		三重県立宇治山田商業高等学校	1	
68	大阪府	大阪府立淀商業高等学校	2	2
69	兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校	1	4
70		兵庫県立小野高等学校	1	
71		尼崎市立尼崎双星高等学校	2	
72	奈良県	奈良県立奈良情報商業高等学校	1	1
73	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	1	1
74	島根県	島根県立出雲商業高等学校	1	1
75	岡山県	岡山県立岡山南高等学校	6	10
76		岡山県立倉敷商業高等学校	2	
77		岡山県立津山商業高等学校	1	
78		岡山市立岡山後楽館高等学校	1	
79	広島県	広島県立総合技術高等学校	1	1
80	山口県	下関商業高等学校	1	2
81		長門高等学校	1	
82	愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校	39	94
83		愛媛県立三島高等学校	1	
84		愛媛県立東温高等学校	4	
85		愛媛県立大洲高等学校	15	
86		愛媛県立八幡浜高等学校	19	
87		愛媛県立宇和島東高等学校	15	
88		今治精華高等学校	1	
89	福岡県	福岡県立折尾高等学校	1	1
90	長崎県	長崎市立長崎商業高等学校	2	2
91	熊本県	熊本県立阿蘇中央高等学校	1	1
92	大分県	大分県立中津東高等学校	2	4
93		大分県立安心院高等学校	1	
94		大分県立別府翔青高等学校	1	
95	宮崎県	宮崎学園高等学校	1	1
96	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	4	11
97		鹿児島県立明桜館高等学校	3	
98		鹿児島女子高等学校	1	
99		津曲学園鹿児島高等学校	3	
100	沖縄県	沖縄県立中部商業高等学校	1	1

令和4年度合計 100校 488名

過去の表彰校・表彰者数合計一覧表

年度	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和1	令和2	令和3
表彰校	18	31	58	62	79	74	95	90	79	78	69	65	80	78	92	95	95
表彰者	32	77	197	152	232	211	366	300	344	310	255	271	241	416	448	497	513

※令和5年3月2日現在
※平成17年度より実施

令和5年度 科目別・項目別出題基準

科目・項目は、文部科学省高等学校学習指導要領・商業編の分類による。

【3級科目】

ビジネス基礎

- (1) 商業の学習とビジネス
- ※ (2)～(5) に含める
- (2) ビジネスに対する心構え 5問
- (3) 経済と流通 20問
- (4) 取引とビジネス計算 15問
- (5) 企業活動 10問
- (6) 身近な地域のビジネス
- ※ (2)～(5) に含める

各2点・計50問

※形式別の出題内訳は以下の通りとする。

直接解答型 20問 (4題×5問), 本文参照型 30問

※直接解答型の出題形式は以下の4種類とする。

- ①関連事項の結合問題
- ②一定条件による細目分類問題
- ③解答群付きの空欄補充問題
- ④下線部の正誤判定・訂正問題

【1・2級科目】

マーケティング

- (1) 現代市場とマーケティング 12問
- (2) 市場調査 8問
- (3) 製品政策
- (4) 価格政策 } 15問
- (5) チャネル政策 } 15問
- (6) プロモーション政策の動向

各2点・計50問

経済活動と法

- (1) 経済社会と法 5問
- (2) 権利・義務と財産権 15問
- (3) 取引に関する法 25問
- ※「手形と小切手の利用」と「金融取引」については、
- (4) に含める。
- (4) 会社に関する法 (5問) } 5問
- (5) 企業の責任と法 (5問) }

各2点・計50問

※(4)と(5)は、いずれか1項目(5問)を選択するものとする。

ビジネス経済A

- (1) ビジネスと経済 7問
- (2) 需要と供給 7問
- (3) 価格決定と市場の役割 11問
- (4) 経済成長と景気循環 15問
- (5) 経済政策 10問

各2点・計50問

ビジネス経済B

- (1) サービス経済化とサービス産業 6問
- (2) 経済の国際化 15問
- (3) 金融市場と資本市場 7問
- (4) 企業経営 15問
- (5) ビジネスの創造と地域産業の振興 7問

各2点・計50問

ビジネス・マネジメント

- (1) ビジネスとマネジメント 6問
- (2) 組織のマネジメント 10問
- (3) 経営資源のマネジメント 20問
- (4) 企業の秩序と責任
- (5) ビジネスの創造と展開 } 14問

各2点・計50問

- a. 設問数はいずれも基準であり、年度によって各項目の設問に若干の異同がある。
- b. 3級科目の出題形式は直接解答型と本文参照型とし、1・2級科目はすべて本文参照型とする。
- c. 1・2級科目については、3級の内容を踏まえたものとする。

商業経済検定試験の試験実施順序について

平成 31 年 2 月の答申を受け、新学習指導要領科目への移行にあたり、試験時間を以下のとおりといたします。ただし、令和 5 年度のみ 6 科目実施といたします。

令和 4 年度

ビジネス基礎	9:00～ 9:40	40分
マーケティング	10:00～10:50	50分
経済活動と法	11:10～12:00	50分
昼食	12:00～12:50	50分
ビジネス経済 A	12:50～13:40	50分
ビジネス経済 B	14:00～14:50	50分

令和 5 年度

ビジネス基礎	9:00～ 9:40	40分
マーケティング	10:00～10:50	50分
経済活動と法	11:10～12:00	50分
昼食	12:00～12:50	50分
ビジネス経済 A	12:50～13:40	50分
ビジネス経済 B	14:00～14:50	50分
ビジネス・マネジメント	15:10～16:00	50分

令和 6 年度～

ビジネス基礎	9:00～ 9:40	40分
マーケティング	10:00～10:50	50分
商品開発と流通	11:10～12:00	50分
昼食	12:00～12:50	50分
ビジネス法規	12:50～13:40	50分
ビジネス・マネジメント	14:00～14:50	50分

- ※ 1 令和 4 年度から、1・2 級の試験時間を 50 分に変更
- ※ 2 令和 5 年度のみ 6 科目実施

リテールマーケティング（販売士）検定試験とのリンケージ制度について

新学習指導要領の改訂に伴い、「商業経済検定試験」において、新検定科目への移行が行われることから、リテールマーケティング（販売士）検定試験との間で設けている科目免除制度においても、対象としている検定科目を、2023年度・2024年度の2年度に渡り順次変更となります。

（受験者の方や学校関係者への周知お願い）

リテールマーケティング（販売士）検定試験において、3級で科目免除制度を利用してご受験いたたく場合、受験申込の際、商業経済検定試験で合格した対象となる全ての科目の各種証書（「合格証書」または「合格証明書」）のマイページからの提出が必要となっております。

例えば、リテールマーケティング（販売士）検定試験の3級受験で、「マーケティング」の科目免除制度を利用するためには、マイページからの受験申込時に、商業経済検定試験の「ビジネス基礎」と「マーケティング」の2科目それぞれの各種証書（「合格証書」または「合格証明書」）の提出が必要です。一度、提出した書類の変更はできませんので、提出の際は再確認するなどご注意ください。

提出していただいた各種証書に不備や不足があった場合、試験の結果が合格点に達していても「不合格」となりますので、あらかじめ商業経済検定の受験者の方に、周知していただきますようお願いいたします（学校で行う団体受験では、試験の3日前までに、マイページに各種証書をご提出いただけない場合、受験申込は、キャンセル扱いとなります。返金等できませんので、各種証書の提出締切日についてもご注意ください）。

免除科目について

【2023 年度】

商業経済検定試験 合格科目 (変更前)	商業経済検定試験 合格科目 (変更後)	リテールマーケティング(販売士) 検定試験 3級免除科目
・ビジネス基礎 ・マーケティング (2科目合格)	・ビジネス基礎 ・マーケティング (2科目合格) ※変更なし	・マーケティング (1科目免除)
・ビジネス基礎 ・マーケティング + (1)経済活動と法 (2)ビジネス経済A (3)ビジネス経済B ※上記(1)～(3)の3科目のうち いずれか1科目 (3科目合格)	・ビジネス基礎 ・マーケティング + (1)経済活動と法 (2)ビジネス経済A (3)ビジネス経済B (4)ビジネス・マネジメント ※上記(1)～(4)の4科目のうち いずれか1科目 (3科目合格)	・マーケティング ・販売・経営管理 (2科目免除)

【2024 年度】

商業経済検定試験 合格科目 (変更前)	商業経済検定試験 合格科目 (変更後)	リテールマーケティング(販売士) 検定試験 3級免除科目
・ビジネス基礎 ・マーケティング (2科目合格)	・ビジネス基礎 ・マーケティング (2科目合格) ※変更なし	・マーケティング (1科目免除)
・ビジネス基礎 ・マーケティング + (1)経済活動と法 (2)ビジネス経済A (3)ビジネス経済B ※上記(1)～(3)の3科目のうち いずれか1科目 (3科目合格)	・ビジネス基礎 ・マーケティング + (1)経済活動と法 (2)ビジネス経済A (3)ビジネス経済B (4)ビジネス・マネジメント (5)商品開発と流通 (6)ビジネス法規 ※上記(1)～(6)の6科目のうち いずれか1科目 (3科目合格)	・マーケティング ・販売・経営管理 (2科目免除)

※受験手続や、免除の有効期限等の詳細は日本商工会議所にお問い合わせください。